

37 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(8)

伝統文化(1) —神楽—

29期 仲田 元昭

同窓生の皆様 明けましておめでとうございます。街歩きのご案内も37回4年目に入りました。船橋は伝統文化を継承し続けている街、今回から伝統文化のご案内です。5か所の神社で演じられている神楽の内、市の無形民俗文化財の4ヶ所の神楽についてご案内します。

「船橋大神宮の神楽」

写真は元日、1月3日に演じられる新春奉納神楽です。その他に節分、4月3日の水神祭、10月20日の例祭、12月の二の酉等に船橋大神宮（意富比神社）境内の神楽殿（水神祭は船橋漁港）で演じられます。伝えているのは大神宮楽部の人達で、現在は地元の人によって構成されています。現在9座が伝えられています。

① みこ舞、②猿田舞、③ ^{おきなまい}翁舞、
_{ちのり た かみ ひるこ}
④知乃里舞、⑤田の神舞、⑥蛭子舞、
_{てんこ}
⑦天弧舞、⑧恵比寿大黒舞、⑨山神舞
このうち、恵比寿大黒舞は節分祭のみで演じられています。

使用する楽器は、舞楽に用いる楽太鼓と締太鼓、笛で各1人ずつが演奏します。

現在、大神宮で演じられる神楽の由来はよくわかりませんが、曲目の構成からみて、12曲を基準とする「十二座神楽」の系統であると考えられます。蛭子舞のように海に関係の深い曲目が大切になされていることも船橋が江戸湾に臨んでよい漁場をひかえた土地であったことに関連した特色であると言えます。

「その他3神社の神楽」

二宮神社の「かとり舞」、高根町神明社の「大蛇舞」、飯山満町大宮神社の「こかじ」の3つの神楽が、市指定無形民俗文化財として今も地域の住民により、演じられ伝統が引き継がれています。

船橋大神宮 新春奉納 神楽



「田の神舞」



「翁舞」



「知乃里舞」

「38 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(9)に続く」 「2024-1-1 寄稿」